



家畜衛生だより

令和8年7月発行 No.8-5 (牛)
埼玉県川越家畜保健衛生所

電話：049-225-4141

(夜間、土日祝日は緊急携帯に転送)

FAX：049-226-9653

Eメール：r254141@pref.saitama.lg.jp

牛ウイルス性下痢(BVD)のバルク乳検査を実施します！

妊娠中に牛ウイルス性下痢ウイルスに感染した母牛から生まれた子牛は、持続感染牛(PI牛)として生涯ウイルスを排泄し続け、農場内で本病をまん延させる原因となります。

本県ではPI牛早期発見のため、半年毎に県内の全酪農家を対象にバルク乳を用いて、無料で検査を実施しています。

今年度、1回目の日程については次のとおりです。

【検査概要】

日時：令和8年7月24日(金)

検査材料：バルク乳(家保職員がクーラーステーションで採材します)

検査方法：遺伝子検査

※バルク乳検査で陽性の場合は、個体を特定するために、
後日、農場で全頭検査を行います。
その際は改めて当所からご連絡します。

✓導入牛(妊娠牛の場合はその産子)は、導入後すぐにBVDの検査を行いましょう
※販売用子牛も販売前に検査を行い、BVDをまん延させないように努めましょう。

✓BVDワクチンを接種して感染を予防しましょう

ワクチンには生と不活化があります。ワクチンにはそれぞれ特徴があるので、農場に合ったものを選びましょう。

特に妊娠牛に接種する場合は、妊娠牛に接種可能なものを選びましょう。

✓PI牛と診断されたら速やかにとう汰しましょう

